



2024

# 学校だより 本荘 Smile

令和6年度 第46号  
令和7年3月24日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

**感動の卒業証書授与式を挙行いたしました。やはり学校というものはこうあらねばと思いました。**



大変、あわただしかった2、3月でした。この学校だよりも2カ月ぶりに発行いたします。もちろん本当はもっと発行したかったのですが、本当にすみません。

上の写真のように、令和6年度第149回卒業証書授与式を挙行することができました。第6学年の保護者の皆様だけでなく、全保護者の皆様、PTA役員の皆様、地域の皆様、多くの方々のご理解ご協力があったの卒業式だったと感じております、誠にありがとうございました。

今年度の卒業式は、校長自らがいうのもなんですが、大変感動的な卒業式となりました。卒業生がみな笑顔だったことを何よりもうれしく思います。さらに、式に参加した6年生一人一人が出席された方々の前で、自らの「志」を意思表示していたことを大変誇りに思いました。

この学年は、令和になった年の新入生でした。平成31年に入学し、途中で元号が変わった節目の年の学年です。そして、入学した年度の冬からは、コロナ禍となり、入学したのもつかの間、年度の終わりには、全国一斉休校となる事態にも遭遇しました。また、入学した時は数少ない人数でしたので、2年生、3年生、4年生の3年間に複式学級として過ごしています。ここまで聞くと大変な不運に見舞われたように感じますが、だからこそ、この学年は強かったのです。

そういった状況の中、未来に向けてそして、力強く生き抜く力を身に付けてきました。(裏面へ)

そして、6年間培ってきた力がこの卒業式という大舞台で、存分に発揮された…、そんな卒業式だったと思います。本当にすばしかったです！！ありがとう6年生のみんな。

校長式辞の中では、小説、ドラマで有名な「下町ロケット」のモデルになった植松 努さんという中小工場の社長さんのお話をしました。話せば長くなるのですが(笑)、なぜ、式辞で植松さんのお話をしたかという、「夢をあきらめない」という、すばらしい生き方をしてくられたからでした。実は植松さんは、小さいころからロケットを打ち上げるという夢を持っていたのですが、まわりの人からは「どーせ無理」という冷たい言葉で、何度もなじられてきたといひます。「そんなことできるわけない」「そんなこと言っているヒマがあったら勉強しろ」等々、友達だけでなく、学校の先生からも冷たい言葉を受けていたといひます。植松さんは、小学校の担任の先生から体罰を受けたり、時にはいじめられたりしながらも、ロケットにかかわる夢をあきらめずに、ついにロケットを打ち上げることができたのです。なんとすばらしい生き方なのでしょう。

辛い仕打ちにも負けず、自分にも負けず、夢をあきらめなかったこと、その姿を旅立つ6年生に伝えること、そして、その生き方を伝えることを、卒業式に参加している全児童、保護者の方々、地域の方々、さらには、教職員にも見せたかったのです。私の使命は達成できました。なぜなら、今回の式辞は長かったのですが、6年生は私の一言一句を食い入るように聴いてくれました。壇上で一人一人の表情を見ながら、大変うれしい気持ちで式辞を読むことができました。

卒業式後、6年生が、「校長先生のお話、約束通りでした。すごくいい話で感動しました。」「校長先生が、なぜぼくたちにこの話をしてくれたのかわかりました。」「夢を、志を大切にします。」とってくれました。こんなにうれしいことはありませんでした。校長冥利につきました。

そんな6年生が涙ながらに、自分を語り、自分の目指す生き方を語り、大好きな担任への感謝の言葉、学校への感謝、地域への感謝、そして大切な育ててくれた家族への大きな感謝を涙ながらに伝えている姿、体が震えました。学校というものはこうあらねばと、強く強く思いました。

在校生は、精一杯の気持ちを込めて6年生への送る言葉を大きな声で伝えていました。そして、「この星に生まれて」をあらん限りの声で全身を震わせながら歌い上げていました。在校生にも感謝です。この本荘小学校という学校はなんとすばらしい学校なのでしょう。うれしくてうれしくて涙が止まらない校長先生でした。みんなが涙する卒業式。最高の令和7年3月21日でした。

さて、今日は3月24日、修了式の日です。それぞれの学年は2週間後には次の学年になります。卒業した6年生の意思を受け継ぎ、立派な学年に育ってくれることでしょう。楽しみです。(校長)

### 校長先生の虫眼鏡 「卒業式の様子をすこしだけ」



大好きな田畑先生と



最後のジャンケンポン